だれの目にも優しいカラーユニバーサル・デザインで制作した広報誌です。

ふれあいネットワーク

やまなしの福祉

No.361
2021
9月号

特集 住民と創る暮らしのささえあい

P2 社会福祉法人 小菅村社会福祉協議会

P6 福祉情報
「未来の豊かなつながりアクション」の紹介

P7 福祉県政レポート
やまなし地域づくり交流センターが開所しました

P8 いきいき山梨ねんりんピック2021
山梨県シルバー作品展・シルバー俳句大会 作品紹介

P10 社協ボランティアセンター情報コーナー
富士河口湖町社会福祉協議会

P11 県社協情報
介護講座のご案内・福祉用具紹介

P12 善意をありがとう・福祉人材センター情報 ほか

写真：小菅村社会福祉協議会のキッチンカー前で食事を楽しむ住民

特集 住民と創る暮らしのささえあい

小菅村社会福祉協議会の取り組み

　新型コロナウイルスの感染拡大による自粛が続く中、人と人との何気ないつながりに、安心や喜びを感じている方は多いのではないのでしょうか。

　小菅村社会福祉協議会（以下、村社協）では、コロナ禍のため自宅で過ごすことが多くなった高齢者のストレスを解消し、孤立を防ぐため、住民同士のつながりを生む新しい取り組みにチャレンジしています。ウォーキングコースの設定やキッチンカーの導入など、村社協の取り組みをきっかけに、人々がつながり、新たな支えあいが自然に生まれている様子を取材しました。

外出できず住民のつながりが希薄に

　小菅村は人口692人（6月末現在）。村によると、高齢化率は45.81％で、住民の半数近くが65歳以上の高齢者です。村社協は、高齢者が集うサロン「たまり場広場」を開催。平日は毎日開き、10人以上が集まって折り紙や体操、会話、食事などを楽しんでいましたが、昨年はコロナ禍で休止せざるを得なくなりました。

課題の指示に従って元気よく「ヤッホー」

　村社協では、自宅にいることが多くなった高齢者を訪問し、健康相談などを行ってきました。その中で、集まる場がなくなったことで、人とのつながりが希薄になり外出の機会も減ったため、ストレスや運動不足を感じている人が多いことに気づきました。そこで、安全で気軽に歩いて楽しめる「ウォーキングコース」を地区ごとに設定することにしました。

コースのポイントにある課題

「カラダと頭を使う」ウォーキングコース

　ウォーキングの名称は「コロナに負けない　カラダも頭も使ってウォーキング」にしました。昨年5月に村社協の事務所近くの橋立地区に、約800メートルのコースを設定。コースの途中には約20カ所のポイントがあり、それぞれ「笑福万来　声を出して笑いましょう」「お口の体操」などの課題を貼りました。「楽しみながら歩き、カラダも頭も使って心身ともに健康になろう」との趣旨です。自発的に誘い合って歩く人もいますが、自宅から出てこない人には社協職員が電話し、時間があるときは

コースの途中にあるポイントの課題に挑戦

職員も一緒に歩くようにしています。
　村社協の加藤弘子さんは「健康づくりに加え、高齢者が一緒に歩いて地域を知ることになり、仲間づくりや地域づくりにも役立ちます」と話しています。サロンは今年6月から再開していますが、ウォーキングコースは好評なため、村内の全8地区に設定する方針です。

休憩所では糸電話で楽しくコミュニケーション

人と人が“つながる”キッチンカー

　キッチンカーは、以前から導入を検討していたそうですが、今回のコロナ禍で集まって食事やレクリエーションができないことで、住民同士のつながりが希薄になることへの危機感から「こちらから地域の中に出かけていこう」と、導入を決めました。「人と人との結びつき、地域の結びつきを深めよう」との願いを込めて「COMMUNITY&KITCHEN　つながるキッチン」と名付けました。
　青柳慶一さんら3人の社協職員が中心になって令和3年3月末から運営を始め、毎月2～3日、各地区を回って格安で食事を提供しています。
　苦心したのはメニューづくりです。最初のメニューは「モモちゃんラーメン」にしました。昭和47年から36年間にわたって村役場前にあった「藤木食堂」の看板メニュー「中華そば」です。店主の藤木百江さん（84歳）の愛称から「モモちゃんラーメン」と呼ばれて人気でした。平成20年に店を閉じましたが、この味を覚えている住民は多いそうです。その百江さんがサロンに来ていたことから、青柳さんら職員が百江さんから特訓を受けて、スープや手作りチャーシューの懐かしい味を再現しました。百江さんも「当時の味になりました」と太鼓判です。つながるキッチンには住民が詰めかけ、復活した「モモちゃんラーメン」は大好評でした。6月には、村内の女子中学生がレシピを考えた「カレーうどん」をメニューに加え、こちらも好評でした。青柳さんは「今後も新しいメニューを加えていきたい」と意気込んでいます。

キッチンカーを運営する小菅村社協の（左から）望月理香子さん、青柳慶一さん、加藤弘子さん

手作りチャーシューも好評な
モモちゃんラーメン

メニュー第2弾のカレーうどん

住民も手伝いに加わって準備に大忙し

深まるコミュニケーション　広がる支え合いの輪

キッチンカーの周囲に用意されたベンチでは、食事を楽しみながらの会話が弾みます。横瀬綾子さん（67歳）は「ラーメンはスープがおいしかった。カレーうどんもおいしいですね。友達ともコロナ禍でなかなか会えないし、集まっておしゃべりもできないです。外食だって思うようにできません。つながるキッチンに来れば、知り合いに会えるし、おいしいものも食べられます」と笑顔で話していました。また、青柳七枝さん（80歳）は「みんなの顔を見ることができるのもうれしいです。安否確認ができますし、食事もおいしいし、これからも楽しみにしています」と期待していました。

村社協の青柳さんによると、最初のつながるキッチンで食事を提供した後に住民自らが「うちの野菜を提供するよ」と申し出てくれたり、職員が忙しそうなのを見て配膳や会計を手伝ってくれたり、住民ぐるみでつながるキッチンを支援してくれるようになったそうです。つながるキッチンの食事には毎回、地元の野菜を使うようにしています。

青柳さんは「住民の皆さんの手助けがあってこそ、つながるキッチンの運営ができています」と感謝しています。キッチンカーを通じて、住民同士のコミュニケーションと支え合いの輪が広がっています。

食事を楽しむ住民

食事の後は体操も

住民が安心していきいきと暮らし続けていける村の拠り所になる

小菅村社会福祉協議会　**青柳 慶一**さん

キッチンカーは、サロンに来られない人にも、こちらから地域へ出かけていくことで関わりを持ちたいと思い、コロナ禍前から話をしていました。小さな村であり、顔が見えるからこそ、住民を取り残したくないのです。

小菅村社協の法人理念は「住民が安心していきいきと暮らし続けていける村の拠り所になる」です。村内にはデイサービスの施設はありますが、入所する施設はありません。高齢になり、自宅での生活が難しくなると、村外で暮らすことになります。社協としては一日でも長く住民の皆さんに住み慣れた村で暮らしていただきたいと考えています。「村で最後まで」が理想ですが、現状では困難なので、「ならば一日でも長く村にいてもらおう、その拠り所に社協がなろう」と。それが私たちのミッションだと思っています。

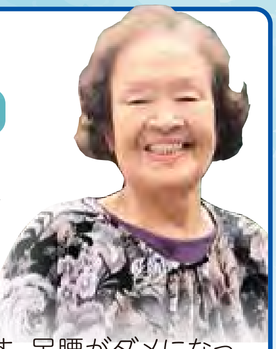
サロンは「居場所を充実させて、住民を孤立させない」ことを目的として開催しています。ここに来ればみんながいるし、一日の中で人とふれあい、楽しく過ごせる時間をつくることで、体調の変化や生活上での悩みなどを把握するよう心掛けています。一人暮らしの高齢者も含めて社協がサポートしたい。ウォーキングもキッチンカーもこうした思いから企画しました。

住民の方々も、こうした私たちの思いと取り組みに共感してくださり、野菜の提供、運営をお手伝いなど、自分たちのできることで協力をしていただいています。こうした協力があるからこそ活動ができていると思っています。住民のみなさんには本当に感謝しています。

活動に協力している人たちの思い

小菅村が好き 元気でずっと暮らしたい

「モモちゃんラーメン」の 藤木 百江さん（84歳）



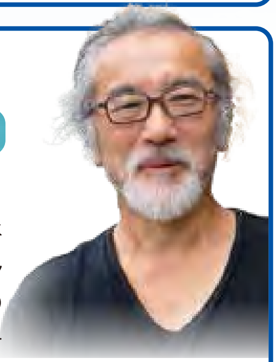
社協さんから「中華そばの作り方を教えて」と言われた時は、恥ずかしいやら、うれしいやらでした。こんな私がお役に立てるのなら、と引き受けました。職員の皆さんが熱心に取り組んでくれました。出来上がった中華そばは、懐かしい昔の味になりました。キッチンカーで村の皆さんが喜んで食べて、おいしいと言ってくれた時は本当にうれしかったです。やってよかったなあと思いました。

今は一人暮らしですが、村外にいる3人の子どもたちが交代で面倒を見に来てくれます。

サロンはいつも利用させていただいています。知り合いもいて楽しいし元気になりますから、やっぱりこの村が好きです。ずっと元気でこの村で暮らしていきたい。ありがたいことに、今は特に体に悪いところはないですが、足腰が弱っているとは感じます。足腰がダメになったら、村の外に行かなくてはならないでしょ。だから、毎朝、近くの小学校の校庭を歩いています。天気が良い日は、社協さんが設定してくれたウォーキングコースも歩いています。歩きながら知り合いとおしゃべりしたりして、楽しいですよ。

地産地消で小菅村を盛り上げたい

野菜を提供している 月井 芳文さん（63歳）



東京から小菅村に来て5年になります。JICA（国際協力機構）などの政府系機関で、アフリカなど海外の国への農業技術支援やアドバイザーなどの仕事をしていました。子どもに良い環境を、と日本のいろんな地域を見たのですが、子どもが小菅村を気に入って住むことになりました。村の地域おこし協力隊で活動し、役割が終わった後も住み続けています。耕作放棄地などを利用して作物を栽培しています。キッチンカーの話を聞き、協力するよ、と野菜を提供するようになりました。

地元で作った食材を地元の人に食べてもらうことが大切です。キッチンカー、サロン、デイサービスの場で活用するほか、学校給食にも取り入れてほしい。食育にもつながりますし、村の経済が回るようにもなります。（モモちゃんラーメンのように）昔のメニューを出すのもいいですね。お年寄りと若者、子どもたちの間で食を通じて対話が生まれます。私のような者を受け入れてくれるのが小菅村の良さですかね（笑い）。みんなで楽しく村を盛り上げていきたい。

若者が定着して活気ある村になってほしい

野菜作りやキッチンカーの手伝いをしている 青柳 光敏さん（52歳）

社協の青柳慶一さんから声がかかり、社協の近くにある畑での野菜作りを手伝うようになりました。農業は経験がなかったのですが、知り合いが丁寧に教えてくれます。こうしたコミュニケーションも楽しいですよ。収穫した野菜をサロンなどで出しておいしいと言ってくれるとうれしいです。

キッチンカーが村内を回るときは配膳などの手伝いをします。キッチンカーは良い取り組みだと思います。みんなコロナ禍でなかなか出かけられないですが、地区に来てくれることでみんなが顔を合わせることができます。お互いに安否も確認できますし、料理を囲んでみんなが楽しそうに話をする様子をみるとうれしいです。

最近は若い人が移住して来るようになって村に活気が出てきています。ただ、村から出ていく若者も多い。将来は若者が定着するようになってほしいですね。

取材を終えて

今回小菅村を訪問し、つながるキッチンに参加した際、いつのまにか住民の方が配膳をはじめたり、注文取りをしたり、片付けを始めたりなど、誰かが何かを言わなくても自然に協働が始まり、最近運動不足と聞けば「ちょっと体操でもしますか!」といって体操が始まる。そのときそのときを大切にし、自然な支えあいが生まれる。そんな姿に何とも言えない居心地の良さを感じました。住民の方々の地域への想いを上手につむいでいき、住民とともに普段の暮らしの幸せを考え、活動を創り出していく社会福祉協議会。これからの地域づくりにおいて、たくさんの可能性を持っているのではないでしょうか。

福祉情報コーナー

新型コロナウイルス禍での“つながり”をあきらめない
地域福祉・ボランティア活動交流サイト「未来の豊かなつながりアクション」のご紹介

未来の豊かな つながりアクション

新型コロナウイルスの影響が長期化する中、地域住民、ボランティア・NPO、民生委員・児童委員、社会福祉協議会、社会福祉法人・福祉施設など様々な人々が「つながり」を途切れさせない活動を全国各地で取り組んでいます。

人と人との関わり合い方が変わっていくなか、つながることをあきらめず、感染防止策を講じながら活動する方法や工夫を集めて提供する、悩み葛藤しながら活動している仲間たちの交流を図る、そうした取り組みをWEB等を活用して進めることで、全国の活動者や組織・団体の実践を後押ししたいと、この運動が立ち上がりました。

全国各地の取り組み事例を紹介

ホームページでは全国各地の取り組み事例が紹介されており、活動者同士の情報交換・交流を目的としたオンラインサロンやセミナーなども不定期で開催されています。

今回特集した小菅村社会福祉協議会も介護予防・集いの場の取り組み「コロナに負けない！ カラダも頭も使ってウォーキング」が紹介されています。

各地の未来に向けた「つながりアクション」をぜひご覧ください。

新型コロナウイルス禍での“つながり”をあきらめない地域福祉・ボランティア活動交流サイト「未来の豊かなつながりアクション」

https://tunagari-action.jp/

「やまなし地域づくり交流センター」が開所しました

やまなし地域づくり交流センターは、多様な主体が交流・連携し、起業・創業や社会貢献活動など、地域経済の活性化と地域課題の解決に向けた住民の主体的な参画を図るため、地域コミュニティの活性化に資する施設として、新たに誕生しました。

やまなし地域づくり交流センター

施設の役割

◎多様な主体の交流促進

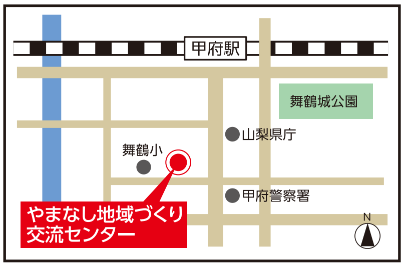
地域の課題解決に取り組む多様な主体の交流拠点として地域活性化に向けた産学官民の交流を促進します。

◎起業・創業や社会貢献活動の促進

多様な主体の交流のもと地域の課題解決に向けたビジネスの起業・創業や社会貢献活動を支援します。

主な機能とサービス

1. **交流・連携の場の提供** ◉利用者等の交流や連携を深めるためのイベントやセミナーの開催
2. **情報の収集・提供** ◉ソーシャルビジネスや社会貢献活動、起業・創業等に関する情報の収集
3. **相談、支援** ◉起業・創業や社会貢献、地域活性化などの相談への対応
4. **オープンイノベーションや共創を創出するための機会の提供**
   ◉ワークショップやミーティングの企画・開催 ◉専門の支援機関や企業、ボランティア・NPO等とのマッチング
5. **地域人材の育成** ◉大学等と連携したワークショップの開催
6. **ボランティア・NPO活動に対する支援**



遠山センター長メッセージ

指定管理者のやまなしダイバーシティ推進共同事業体(テレビ山梨・アルティ・甲府ビルサービス)は、このセンターで、多様な人たちが交流や連携をする「場」と「きっかけ」を提供し、新しいつながりや、起業・創業の芽が育つことを目指しています。ぜひ一度足を運んでみてください!

山梨県ボランティア・NPOセンターが移転しました!

山梨県ボランティア・NPOセンターは令和3年8月12日より山梨県立やまなし地域づくり交流センター3階へ移転となりました。
ボランティアやNPO活動に関する情報などお気軽にお問い合わせください。

山梨県ボランティア・NPOセンター

施設概要(施設・設備の内容)

施設区分		内容
3階	山梨県ボランティア・NPOセンター	ボランティア・NPOの活動を支援します。(山梨県社会福祉協議会が運営)
2階	キッズスペース	イベント等の開催時に限り、利用できる託児スペースです。
2階	リフレッシュコーナー	利用者間の情報交流など誰でも利用できる休憩スペースです。
2階	コワーキングスペース	複数の人がスペースを共有しながら事務作業ができ、利用者同士が情報交換することができる場です。
1・3・4階	会議室	少人数での打ち合わせやワークショップ、セミナー等の開催が可能な大小5つの会議室を用意しています。
1階	多目的ホール	講演会やイベント、各種発表会、軽スポーツなど多目的な利用が可能です。
1階	交流スペース	誰でも気軽に立ち寄れ、簡単な打ち合わせや情報交換、休憩等ができます。
1階	受付・相談カウンター	起業・創業や社会貢献活動に関する相談ができます。

お問い合わせ先

【やまなし地域づくり交流センター】山梨県甲府市丸の内2丁目35番1号
ホームページ http://yamanashi-cc.jp　☎055-223-1071
【山梨県ボランティア・NPOセンター】☎055-224-2941

いきいき山梨ねんりんピック2021

山梨県 シルバー作品展・シルバー俳句大会

いきいき山梨ねんりんピック実行委員会（事務局:山梨県社会福祉協議会）は、6月11日から13日まで「いきいき山梨ねんりんピック2021 山梨県シルバー作品展・シルバー俳句大会」を山梨県立図書館 イベントスペースで開催しました。今年度はコロナウイルス感染拡大防止の観点から、作品出品者を対象とした限定公開といたしました。

山梨県シルバー作品展 優秀賞

日本画「待春」
古谷 三七子 78歳

日本画「櫛形の初冠雪」
宮澤 千秋 82歳

洋画「収穫の頃」
小池 正則 81歳

洋画「花影」
茂垣 栄子 71歳

工芸「身延山五重塔」
望月 弘明 97歳

彫刻「能面 真蛇」
木下 政明 83歳

彫刻「福鯉」
里吉 武仁 67歳

工芸「すてる紙あればひろう紙あり(エコ絵画)」
久保 鈴江 77歳

書「椰子の実」
小山 康子 81歳

書「李白の詩」
藤原 宏文 81歳

写真「早春の河津桜」
村松 義輝 77歳

写真「タジクの女」
藤本 紘一 77歳

年齢は令和4年4月1日現在の満年齢

日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の6部門に、151点の作品が集まりました。

各部門で優秀賞に選ばれた作品は、11月に開催予定の「第33回全国健康福祉祭ぎふ大会」の美術展に山梨県代表作品として出品されます。

※全国健康福祉祭ぎふ大会については、感染症拡大の状況により、開催内容等が変更になる場合があります。

「シルバー俳句大会」には、県内の60歳以上の人から、912句の作品が集まり、5月12日に3人の選者（山田省吾さん、上田正久日さん、加藤勝さん）により審査会を行い、特選15句、秀作30句、佳作45句が決定しました。

山梨県シルバー俳句大会 特選句

山田 省吾 選

現世のしがらみを背に初鏡
都留市 直井 信朗 79歳

大根まく頼りは亡父の農日誌
都留市 小笠原 勇 89歳

月煌々大沢崩れの影深し
富士吉田市 勝俣 茂 61歳

夕闇の胡弓ひとしほ風の盆
甲府市 大森 和男 76歳

燕とぶ富士の棚田を知りつくし
富士吉田市 宮下 栄江 80歳

上田 正久日 選

富士仰ぎ老いの一打や鍬始
都留市 小笠原 勇 89歳

胸中に棲む人増えし彼岸花
市川三郷町 長田 睦 80歳

野に立ちて諸行無常の畦を焼く
都留市 磯村 璋一 87歳

日本晴れ五輪旗踊る空高く
甲州市 古家 福治 92歳

白檀の香りただよう入り彼岸
韮崎市 向山 美智子 83歳

加藤 勝 選

白牡丹のゆるみてきたる日暮れかな
中央市 土屋 由子 81歳

早旦や暖炉に残る去年の燠
富士河口湖町 坪井 美智子 81歳

衣被つるりとこの世ぬけてみる
富士吉田市 渡辺 武人 77歳

曳れゆく牛振り向くや冬の虹
甲斐市 佐野 彌生 81歳

丁寧な女僧の暮し菊膾
富士吉田市 鈴木 文代 68歳

年齢は令和3年6月11日現在

社協ボランティアセンター 情報コーナー

富士河口湖町社会福祉協議会

富士河口湖町社会福祉協議会では、「つなげよう! 地域でつくる 一人の幸福 みんなの幸福」を基本理念として、「みんな」が地域福祉に参加することに働きかけ、この地域で暮らす誰もが幸せに暮らせることを目指し日々活動しています。

福祉講話

◆ボランティアロビーの運営（団体登録17団体・個人登録22人）

住民の主体的な地域活動への参加を促進するための相談窓口でありボランティア養成、広報、啓発、情報提供、ネットワークづくり、コーディネート業務などボランティア活動推進全般の業務を行う

◆福祉の集いの開催

◆ボランティア代表者連絡会議の開催

年に2回開催され、ボランティアの情報交換の場となっています。

ボランティア代表者連絡会議

◆住民への広報・啓発・普及

・ボランティアだよりの発行

◆各種ボランティア講座、研修会の開催

・朗読講習会
・傾聴ボランティア養成講習会
・手話奉仕員養成講習会

アレルギーをもつお子さんとお母さんの会。お互いの経験や子育てについて共有したり、悩みを相談し支え合う交流の場

河口湖アレルギーの会（ボランティアロビー）

◆町・町社協事業等への活動の情報提供、調整

◆毎月、視覚障害者への広報朗読サービスを実施

◆点字情報サービスの実施

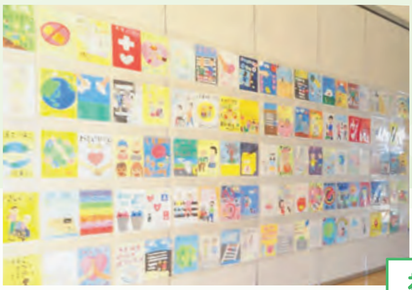
◆声の図書貸出しサービス実施

◆福祉サービス総合保障・ボランティア保険加入手続き

◆福祉のこころ醸成事業

◆福祉教育の推進

・福祉講話のコーディネート
・夏休みボランティア体験教室
・福祉作文
・ボランティア活動ポスター


富士河口湖町の小学生から中学生までのボランティアポスターを展示。

福祉ポスター

富士河口湖町社会福祉協議会

業務時間	8:30～17:15
住 所	南都留郡富士河口湖町小立2487
電 話	0555-72-1430
FAX	0555-72-3606

介護講座のご案内

受講料無料

【対象者】高齢者介護をしているご家族や介護に関心のある方など、どなたでも受講できます。
【 会 場 】山梨県福祉プラザ1階 介護実習普及センター・介護実習室、調理実習室

講　座　名	開催予定日	開催時間	定員
テーマごとに学ぶ講座			
清潔の保ち方(ベッドでの洗髪・清拭)	9月28日(火)	9:30～12:30	30名
床ずれ予防のための介助の方法(衣類の着脱、ベッドでの介助の仕方)	9月30日(木)	9:30～12:30	30名
介護者のリフレッシュ法～こころの話とヨガ～ ※センター開催と同時にZoomによるオンライン配信を行います。申し込み時にどちらかを選択してください。	10月13日(水)	9:30～12:30	30名
快適排泄のポイント	10月19日(火)	9:30～12:30	30名
安心・安全入浴法(シャワー浴、部分浴)	10月28日(木)	9:30～12:30	30名
本人の力を引き出す介助の方法(寝返り、起き上がり、移乗等)	11月 5日(金)	9:30～12:30	30名
お年寄りに起こりやすい病気と予防・救急法	11月30日(火)	10:30～14:30	30名
調理実習をとおして学ぶ"介護食"講座(材料費として1日500円かかります。調理実習で作った食事が昼食となります)			
お年寄りの食事の特徴と調理の実際	9月 7日(火)	9:30～14:30	20名
お年寄りにやさしい献立作り・栄養を補う副菜の調理	9月 9日(木)	9:30～14:30	20名
飲み込みの障がいに合わせた調理方法・トロミの付け方	9月15日(水)	9:30～14:30	20名
認知症について学ぶ講座			
認知症サポーター養成講座(同じ内容で3回開催)	9月 1日(水)	10:00～12:00	30名
	11月22日(月)	13:00～15:00	30名
	12月 7日(火)	13:00～15:00	30名
医師から学ぶ! 認知症の症状の理解と介護の心がまえ	10月29日(金)	13:30～15:00	30名
福祉用具を体験する講座			
福祉用具展示室 見学・体験ツアー(同じ内容で2回開催)	10月15日(金)	13:30～15:00	30名
	12月 9日(木)	13:30～15:00	30名

お問い合わせ・講座申し込み先 介護実習普及センター ☎055-254-8680

※新型コロナウイルス感染症の状況により、開催できない場合があります。その場合、申込者に連絡するとともに、当センターホームページやFacebook等でお知らせします。

Goods 福祉用具紹介 あると便利なグッズたち

集音器 デカ音くん

メーカー:松栄電子工業株式会社

■ 価格 27,000円(税込29,700円)

シンプル・簡単・使いやすいデカ音くんは、ポケットサイズで持ち運びやすく、日常会話やテレビの音を大きく聞こえるよう増幅する集音器です。操作は簡単。音量ボリュームと音質ボリュームをまわすだけです。
20日間無料で試すことが出来るので、納得の上で購入することが出来ます。

Check Point

ご年配の方でも理解しやすいシンプル操作
電源兼用の音量ボリュームと低・中・高域調整ボリュームで簡単に操作できます。耳に優しいクリアな音質。デジタル処理を行わないアナログ式ならではの聞いていて自然な音質です。

電池交換が簡単
小さな製品の場合、高齢の方には自分で電池を替えられない人もいました。
デカ音くんは単四電池を採用。電池交換が容易です。

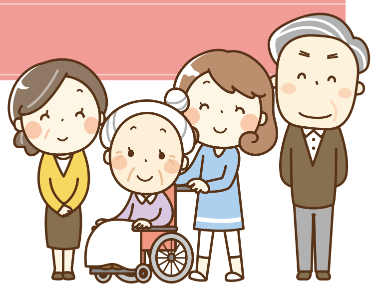
特許取得のマイク収容機構
マイク部分に空いた全方向の穴。独自の形状が音質の向上に貢献しています。

こんな方にオススメ!
- 最近聴こえが悪くなってきた方。
- 色々と試してきたけど自分に合うものがなかった方。

お知らせ

この広報誌の作成費用の一部に赤い羽根共同募金配分金を充てています。

善意をありがとう ～車いすのご寄贈～

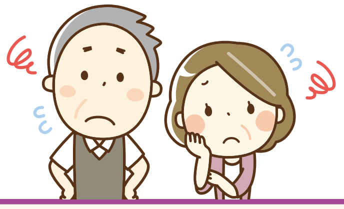


令和3年5月、(株)ツルハホールディングス(本社:北海道、鶴羽順代表取締役社長)様、並びにクラシエホールディングス(株)(本社:東京都、岩倉昌弘代表取締役社長執行役員)様より、車いす10台を県内5ヵ所の社会福祉法人施設へ寄贈いただきました。

また各県の社会福祉協議会にも寄贈いただいています。本県では、今回で10回目となり、寄贈台数は合計で95台となりました。ありがとうございました。

福祉サービスをより良くするために 山梨県福祉サービス運営適正化委員会

ご利用している福祉サービスについて「こうしてほしい」と思っていませんか?「なおしてほしい」と望んでいませんか?



山梨県福祉サービス運営適正化委員会が疑問・要望などのご相談に応じます。

- 住所 甲府市北新1-2-12　県福祉プラザ4階
- 受付時間 平日午前8時30分～午後5時15分
- 電話 055-220-3030

福祉のおしごと マッチングカフェ

採用予定のある事業所とお仕事を探しているあなたをつなぐ、個別面談・相談会を行います。

9月の予定

- 1日(水) 医療法人社団　高原会
- 8日(水) 介護老人保健施設　ノイエス
- 15日(水) 特別養護老人ホーム　豊寿荘
- 22日(水) 株式会社　ニチイ学館　【介護】ニチイケアセンター
【保育】富士吉田市立第七保育園・ニチイキッズとくぎょう保育所
- 29日(水) グループホーム飯田

時間 14:00～16:00　会場 福祉人材センター 山梨県福祉プラザ4階　問い合せ先 ☎055-254-8654

読者アンケートのお願い

今後の広報誌づくりの参考にさせていただくため、アンケートにご協力をお願いいたします。
※右のQRコードよりご回答ください。

広報誌「やまなしの福祉」をパソコンやタブレットで閲覧

広報誌「やまなしの福祉」は、本会ホームページでPDF版の閲覧ができるほか、電子ブックでもご覧になれます。

ホームページ http://www.y-fukushi.or.jp

9月号は以下の通りです。

9月号のID **yfukushi361**

Android用　iOS用

※パスワードは必要ありません

登録は「福祉のお仕事」

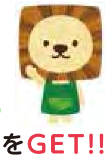
パソコン　モバイル

福祉のお仕事 FUKUSHI-JOB SEARCH

ホームページ https://www.fukushi-work.jp/

「福祉のお仕事」ホームページは、福祉・介護の求人情報をお探しいただけるほか、求職票の登録や希望する求人に応募することができます。また、法人・事業所登録をすると、求人をホームページに公開する事もできます。

LINE@ 友だち募集中。



友達登録で人材センター情報をGET!!

山梨県福祉人材センター

発行 社会福祉法人 山梨県社会福祉協議会
〒400-0005 甲府市北新1-2-12 山梨県福祉プラザ TEL055-254-8610 FAX055-254-8614 http://www.y-fukushi.or.jp/